

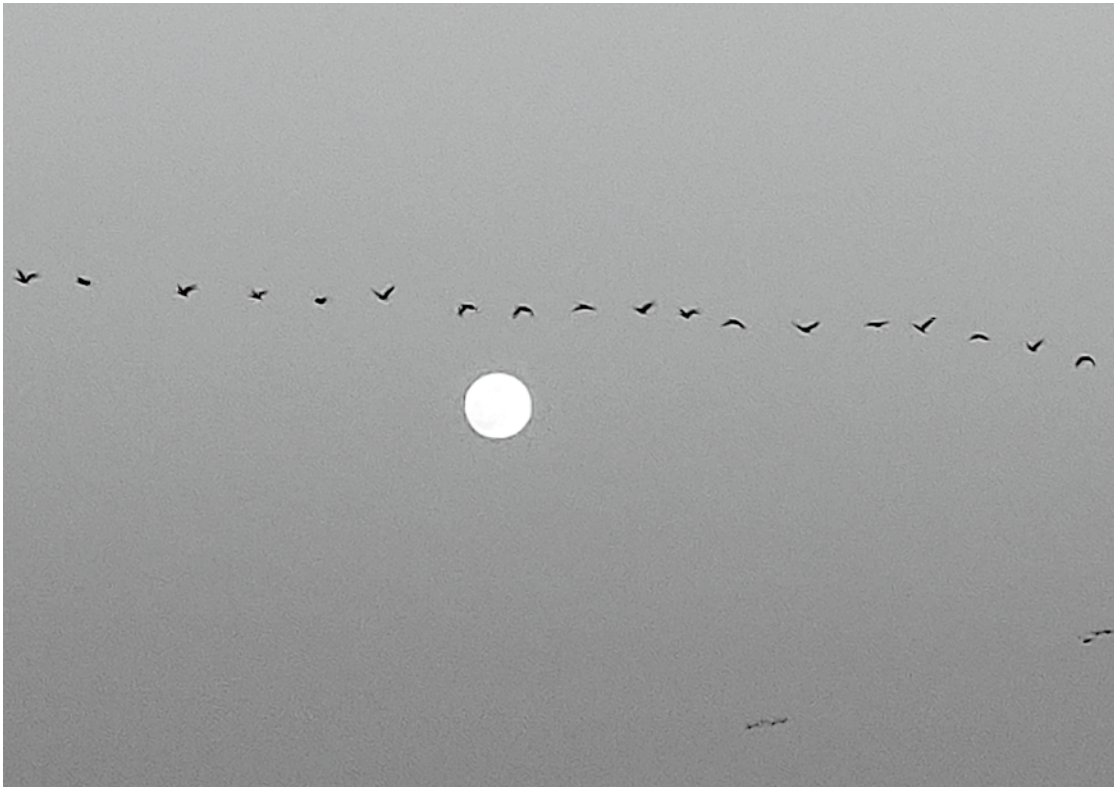
# KIBO NO NIJI きぼりの虹

**発行所**  
 北海道大学生協同組合  
 札幌市北区北8条西7丁目  
 教職員委員会編集  
 電話 011-746-6218

## 主な記事紹介

- 二面 三面 ニホンザルこぼれ話 第10話
- 四面 五面 組声強化月間・利用者ミーティング
- 七面 大学文書館へ行こう 第13回

EzoLink  
 地域個体群研究会 風張 喜子  
 北海道大学 井上 高聡



インフルエンザの流行時期が到来した。鳥にとっても同様で鳥インフルエンザの流行期である。北海道においては、特別天然記念物であるタンチョウの高病原性鳥インフルエンザウイルスの感染が確認され、衝撃が走ったのも記憶に新しい。また養鶏場における発生件数も過去最多を更新するなど、その影響は物価高(卸売価格Mサイズで平均284円・前年比74円高)として家計にも大きな打撃を与えているだろう。本稿では、家禽の利用価値と今後の展望・課題などについて考察してみたい。

鶏肉は、牛や豚と並んで、我々の暮らしの中で最も身近な食材のひとつであるが、血糖値を上げ難い食品としても注目を浴びており、糖尿病患者の貴重なタンパク源でもある。また鶏卵においても理想的な栄養価を持つ食品としてだけでなく、マヨネーズやパン等の加工用食材としての利用価値も高い。このように生理学・病理的な観点だけでなく、羽毛、皮、装飾品の供給源としての側面からもヒト生活を支えているのは紛れもない事実であろう。また近年の鶏卵事業の新展開も目覚ましいものであり、インフルエンザワクチンの生産はもとより、卵殻膜を利用した美容液の開発、ダチョウの卵を利用

したヒトの花粉症予防抗体の作製にも成功するなど、医薬・美容業界への更なる貢献に期待がかかる。このような高い需要と利用価値は古くから見出されており、紀元前1,400頃迄のエジプト王朝時

### ヒトや家禽の未来を脅かす トリインフルエンザの脅威

北海道大学院  
 理学研究院  
 生物科学部門助教  
**水島 秀成**



### Opinion!

代にまでその起源が遡るとは驚きである。当時は、ニワトリではなくてダチョウを飼育していたという説もあるが、少なくとも年間10個程度にしか産まなかつた産卵数が1000個以上にまで改善された古文書が残っていることから、既に交配実験が推進されていた事が伺える。この先人達が築き上げてきた成果は現代の雛の早熟育成、鶏肉・鶏卵量の増産および品質へと

確実に継承されている。しかし、上述のように、高病原性鳥インフルエンザに代表される家畜伝染病の突発的な発生は全飼育個体の淘汰が余儀なくされ、これまでに維持されてきた品種や系統の根絶を伴う危険性を有している。仮に全世界での蔓延を想定すると、人間社会への脅威も含めて、それは想像を絶するものである。ヒトでは、生殖細胞の凍結保存や不妊治療が産業として成り立つようになり、絶滅を回避できる技術は既に構築されているが、鳥類におけるそれらに相当する技術は現在もなお存在していない。生きた個体を維持する以外に手段がないのが現状だ。2020年にSDGsに関連した取り組みの一環として、養鶏分野における新たな日本農林規格(JAS)、「持続可能性に配慮した鶏卵・鶏肉」が制定され、地鶏を含めた銘柄鶏の高付加価値家禽の大量生産に注目が集まっている。このような将来の展望や過去の遺産を保全する意味でも、新規鳥ワクチンの開発・普及に加え、生物学的なアプローチによる個体バックアップ技術の構築は急務であろう。ニワトリやニホンズラの全塩基配列も解読された昨今、これらの資源やゲノム情報を如何に活用するかも、今後の鳥類研究の課題である。

# ニホンザル ごぼれ話

■第10話■

えぞりんく EzoLin-K・地域個体群研究会 風張 喜子

珍味はいかが？

ーニホンザルの衣食住(その四)ー

水産物や昆虫って、珍味になりがちですよ。正直、「最初に食べた人、勇気あるな」と思ってしまうものもあります。蜂の子やイナゴ、ホヤやナマコは見た目から敬遠されがちでしょう。でも、仙台出身のわたしにとっては、イナゴは母が嫌々足をむしって料理してくれた懐かしの味です。ホヤは三陸沿岸の住民の、もはやソウルフードと言っても過言ではないのではないかと思っています。このわた、くちこ、鮎寿司、たちかま、くさや、

ざむし：一度食べてしまえば、その美味しさにすっかりはまってしまいうものもあるでしょう。

ある日、2頭の子ザルがすぐそばの木の枝を何度も見上げています。片方が意を決したかのように立ち上がると、木を登って行きます。目指す先には、明るい黄緑と黒、赤、黄色のド派手なファッションの大きな青虫。6〜7センチはありそうです。食べるのかなと思っで見ていると、青虫に手を伸ばしては引っ込めてを繰り返しています。触ろうかやめようか逡巡しているみたいです。結局、食わずに木から降りてきました。それを見ていたもう一頭も青虫を見に行きます。彼女もやっぱり、おそろおそろ青虫に手を伸ばしたり引っ込めたりするだけで、木から降りてきてしまいました。最後は2頭を見ていた年長のメスが青虫のそばに駆け寄り、むんずとつかんで頬張りました。そして、何食わぬ顔で降りてきます。子ザルたちはというと、目を大きく



芋虫入りサンショの葉を選んだ瞬間。葉ごと摘んで、芋虫だけ唇にはさみとって食べます。もしかして、食感も楽しんでる…？

く見開いてその様子を見ている。まるで「食ったよ…！」とでも言いたげです。あんなド派手な青虫が食べられるとは知らなかったんでしょう。わたしたちにも「これ食べれるの…!？」と躊躇してしまう珍味はたまにありますよね。あのド派手な青虫、サルにとって珍味だったのかも。2頭の子ザルたちも、次に見つけたら我先に駆け寄って食べたことでしょう。

ところで、ニホンザルの食べ物には植物がメインですが、そこそこ簡単に手に入るものなら動物も食べます。主食というほどにはたくさんは食べませんが、箸休めみたいなものでしょうか。初夏にはアリまみれになりながら巣をほじくり返して卵や蛹を食べたり、木の葉にくるまれている芋虫を探して食べたりします。クルツと捲いてあるたくさんの葉の中から、芋虫が入っている葉を「うーんと…これ!!」という

## いじわるじいさん

晩秋の湖の写真に惹きつけられた。霧が立つ水面には黄葉が映り、裸木の先が飛び出して見える。徳山湖とある▼この湖、『ホハレ峠』（大西暢夫著、彩流社）に登場のダム湖ではないか。ダム建設の為、1987年に住人が集団移転となった岐阜県徳山村。大西は記録を残そうと訪ねたその廃村で、老夫婦に出会った。彼らは夏場、移転先から帰り、食は畑の野菜と山菜や川魚で、電気もガスも水道もなく暮らしているのだった。18年間続けたその生活も、老女1人になり、廃村の家は取り壊しとなる▼ダム建設事務所に出て行けと言われてへ先祖や村の人たちが育て上げてきた、わたしの土地なんぞ」と声を震わせ、先祖の土地はすつかりこと、この二代で食いつぶしてしまったんや〜と呟く。老夫婦の無念さがにじむ▼ダム建設中止を求めた住民訴訟もあったが敗訴。2008年に徳山湖は完成した。しかし、この多目的ダムができた時には、発電量も利水の需要も減少したという。ダムは必要だったのか▼先の本には、上空から見た廃村前の村の写真がある。家が、バスが、見える。樹々の豊かな山間の村だ。湖の歴史を知った今、徳山湖の写真は、失われた物の大きさを思い出さずには見られなくなってしまった。(今日子)



春、芽を出しかけのクルミの実を食べているところ。殻の合わせ目からこじ開けられるので、秋よりは簡単に食べられます。秋のクルミ食いは、春のクルミ食いから始まったとも言われています。

感じて上手に選びます。わたしには見分けるのが難しいのですが、サルはハズレをひきません。雨が降り続く時期に大きなナメクジを見つけると、岩や地面にごしごとすりつけてぬめりを落としてから(？)、かぶりつきます。けっこう弾力があるみたいで、ぐにゅーっと引っ張って噛みちぎります。夏にはセミを捕まえて食べるし、あちこちに巣を張っているクモもよく食べます。この間の秋には、岩の

隙間からカマドウマを引っ張り出しては、むしゃむしゃと食べるのを見ました。わたしの調査地・金華山島では、海岸に降りて岩場にくっついて一枚貝を引っぺがして食べるたりもします。こうしてみると、ニホンザルって結構ブルメですね。

食べ続けます。それでも、わたしたちのタピオカみたいに、新しい食べ物ブームになったり、それが定番メニューになったりすることもあるんです。金華山島のサルは、30年ほど前までは、秋にせっかく実ってもクルミの実を食べな

かったそうです。それが、一部のサルが硬い殻を噛み割って中身を食べるようになりまして。わたしが調査を始めた20年前にはオトナのオスしか殻を割ることができず、メスや子ザルはおこぼれに預かるためにオスの周りを遠慮がちにうろろするのが常でした。オスに邪魔だと怒られながらもおこぼれ集めに熱中したところを見ると、クルミの実はとっておきの珍味だったのかもしれない。今、わたしの調査する群れではオトナのメスたちも自力で殻を割って食べています。珍味



一枚貝を食べるサルたち。歯で貝を岩から引っぺがします。

を卒業して、すっかり季節の主食の一つです。

このクルミ割り、割りやすい実を選ぶのが上手いのか、どこを噛むと割れるのかを知っているのか、上手なメスは1分もかけずに割ることができま。中には下手くそなメスもいて、彼女は、殻をよだれまみれにしながら何分もかけてようやく割ります。上手なメスたちは背筋を伸ばして姿勢よく作業しますが、力をめいっぱい伝えているつもりな



割ったクルミの殻から実を取り出しているところ。

のか、彼女はなぜか背中を大きく丸めて頑張ります。それでも割れないときは、クンクンと殻の匂いを嗅ぎ、何かに納得したかのように、ぽとと捨てます。でも実は、彼女は数年前には殻を割ることができませんでした。それが、下手くそで時間がかかってもなんとか噛み割れるようになったんです。群れのみんなが楽しんでいざ馳走を食べたい一心かもしれません。上手なメスたちのように、うまく割るコツをつかむ時が来るでしょうか。これからも、彼女のクルミ割りテクニクを見守りたいと思います。

# 組声強化月間

～たくさんのリクエストにお応えしました！～

10月から各店舗で募集していたリクエスト企画「組声（くみこえ）強化月間」に、たくさんの声を寄せていただきました。ありがとうございます。

学生委員および店舗の職員が話し合っており、できるだけ多く実現できるように商品仕入やメニュー試作などを行いました。

すべての声にお応えすることはできませんでしたが、たくさんの組声リクエスト商品・メニューが店頭に並びました。お楽しみいただけましたでしょうか。

大学生協は組合員の皆さんの要望にお応えして、より良い大学生活を創っていく組織です。日常的

北大生協からの Xmasプレゼント

組声強化月間 ～展開編～

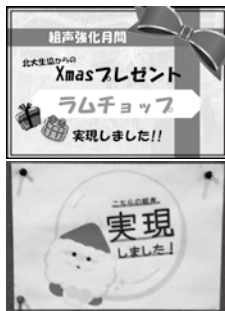
テーマに沿った意見を「組合員の声カード」で募集し 12月にXmasプレゼントとして要望を叶えます!

組声メニュー 展開中!!

是非ご利用ください。

10月30日	10月31日	11月1日	11月2日	11月3日	11月4日	11月5日
11月6日	11月7日	11月8日	11月9日	11月10日	11月11日	11月12日
11月13日	11月14日	11月15日	11月16日	11月17日	11月18日	11月19日
11月20日	11月21日	11月22日	11月23日	11月24日	11月25日	11月26日
11月27日	11月28日	11月29日	11月30日	12月1日	12月2日	12月3日
12月4日	12月5日	12月6日	12月7日	12月8日	12月9日	12月10日
12月11日	12月12日	12月13日	12月14日	12月15日	12月16日	12月17日

UNIV 北大生協



特別に設置された組声BOX

に「くみ声カード」を各店舗に用意してありますので、これからもぜひみなさんの要望をお店にお伝えください。がんばって

## 食堂でのリクエストメニュー・スイーツや 購買でのリクエスト商品をたくさん展開しました。

食堂では9つのメニュー・スイーツが実現（一部の食堂限定あり）



食堂メニューはたくさんのご要望をいただきました。生協で仕入れることのできる食材と、食堂で可能な調理方法などの関係で実現できなかったメニューもありましたが、出来るだけ多く実現できるようにがんばりました。



購買の各店舗でも普段あまり人気のない商品や、仕入れが難しい商品なども特別に用意しました。商品によってはすぐに売り切れてしまうものもあり、好評でした。

今後もお店にある「くみ声カード」でぜひ要望をお伝え



購買各店舗ではたくさんの組声リクエスト商品を展開しました。

# 利用者ミーティング

～生協についての意見交流をたくさんおこないました～

【農学系】7/29 (金) 18時より  
農学部食堂ホール



参加者数：3名(教職員1名、院生1名、学部学生1名)  
+進行役学生委員2名、生協職員6名

【理学系】8/5 (金) 18時より  
理学部2号館2-402



参加者数：8名(教員2名、職員2名、学部学生4名(4年2名、3年1名、2年1名))  
+進行役学生委員2名、生協職員6名(2班で交流)



【薬学系】11/28 (月) 18時より  
薬学部2階リフレッシュラウンジ



参加者数：9名(教員4名、学部学生5名)  
+進行役学生委員4名、生協職員5名(2班で交流)

【保健学科系】11/30 (水) 18時より  
保健学科C301



参加者数：教員1名  
+院生委員1名、理事1名、生協職員3名

学生、院生、教職員が一堂に会して生協についての意見交流を行う「利用者ミーティング」を今回初めて開催しました。前期と後期あわせて四か所で開催いたしました。それぞれの学部の身近な店舗から、普段あまり利用しない店舗の話、研究室を回っている外売店についてなど、様々な意見を交流しました。

日程設定の問題などもあり、参加者が少ないところもありましたが、学生や教職員などが一緒に交流する貴重な場を作ることができました。出された質問にはできるだけその場で生協職員がお答えしながら「もう少しこういうところを改善してほしい」という意見を交流しました。

いずれのミーティングでも和気あいあいとした雰囲気で見解が出し合われました。時折笑いも交えながら、参加者それぞれの大学での生活をもとに、生協はここを改善してほしい、もっとこういうこともできると良い、といった意見が出されました。

具体的な商品への要望については、その場で職員がお答えし、実現した商品もありました。また研究室を回っている外売店の紹介や意見交流もされ、研究室への納品と請求処理などが非常に助かっているという声や、学生も含

めた研究室向けセットの要望なども出されました。また「生協のお店が無くなったら困るので、もっと利用してもらえように改善しよう」という嬉しい想いも出されました。

営業時間の延長や夜営業についての要望も多く寄せられました。生協の利用者数がコロナ前との比較で約半数にとどまっている中で難しい面もありますが、セルフレジや無人店舗などを検討して、低コストで運営できる方法を探っていきます。

また弁当やおにぎり、カップ麺などに目新しさがなく飽きてしまう、との声も多くいただきました。仕入れ先などと一緒、目新しさのある品ぞろえを強めていきたいと思えます。

次年度も引き続き、各学部等で利用者ミーティングを開催し、組合員のみなさんと意見交流を行っていきます。また日常的には各所属単位で選出されている生協総代のミーティング「総代会議」(年間10回開催)へご意見をいただくか、各店に備え付けの「くみ声カード」などでご意見をお寄せください。

組合員のみなさんと一緒に、より良い大学生活を創っていきます。引き続きご意見、ご要望をお願いいたします。

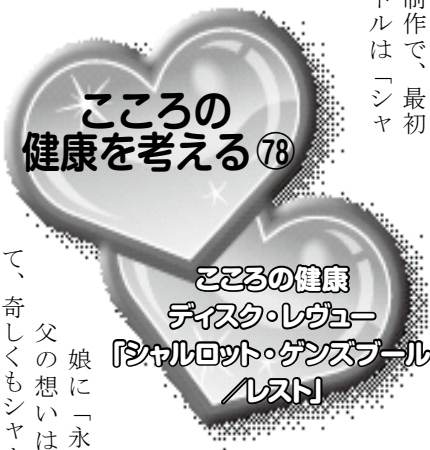
# 心とからだ健康を考える

大学院教育学研究院 准教授

## 渡邊 誠



：そのモノクロームのジャケットをまとったアルバムは、さざめきのような小さな効果音から始まります。正確なドラムのリズム、続いて、教会の鐘の音を思わせる、迷宮のように深い建物の奥から響いてくるような、力強い旋律のうねりが始まります。かみしめるようなフランス語の歌、つづいて躍動する太いエレクトリック・ベースの音。女性のコーラスが鳴り出すと、一気に音全体がこちらに迫ってきて、それが決定的でした。：あのいたいけな少女は、とうとうこんなところに来たんだ：



シャルロット・ゲンズブール、フランスの女優、歌手。十四歳の時、フランスのポピュラー・ミュージックにおける破格の存在である父セルジュ・ゲンズブールの制作で、最初のアルバムを発表します。タイトルは「シャルロット・フォー・エヴァー」。

一九九一年、セルジュ死去。女優として活動をつづける中、二〇一三年、幼少のころから非常に親しかった異父姉ケイト・バリーが逝きます。自殺でした。二〇一七年、通算五枚目のアルバム「レスト」発表。

あどけなさの残る少女は、父の死を超え、三児の母となり、姉の死を超えて、「レスト」を作り直しました。このアルバムにおける成長ぶりには、目をみはります。三曲目「ケイト」。不穏で不安な響きのイントロから始まるこの曲は、タイトルからわかる通り、亡き姉を歌ったものです。私にはこの曲が、まるで悲鳴のように聴こえます。

つらいこと、苦しいこと、悲しいことが、人を成長させる力を持つというものは、古くから知られています。その中でも、死を垣間見させるような苛酷な体験であるトラウマの後に生じる成長は、心理学や精神医学の領域で、心的外傷後成長と名づけられています。親しい者の死にも、同じような力がある

のでしよう。死には、遺された者を、深く強く突き動かす力があると思います。

しかし、シャルロット・ゲンズブールの「レスト」が決定的に優れていると思うのは、歌い手の瞳目すべき成長ぶりにあるのではありませぬ。どんなに成長をもちたそうとも、どんなに深みのある、聴き手の深いところに届く音楽を生み出そうとも、親しい者の死には、決して見合わない。親しい者の死を埋め合わせることでできるものなど、何もない。親しい者の死を越え、成長し、それでも人は生きていく。そしてそのことは、とても残酷なことであること。：それらを如実に伝える稀有な音楽が、ここに鳴っているように思います。ロック史に燦然と輝き続ける傑作中の傑作、ジョン・レノンの最初のソロ・アルバム「ジョン・レノン/プラステイツク・オノ・バンド」が、亡き母を呼ぶ叫びから始まることも、思い合わせません。

娘に「永遠なれ」と願った父の想いは、三十年の時を経て、奇しくもシャルロットがその父自身と姉の死と向かい合うことを通じて、実現に向かって歩み始めたように思います。「レスト」発表後のライヴ (Charlotte Gainsbourg @Théâtre antique d'Arles-Juillet 2018) の「ケイト」には、耐えがたいまでの寂寥感が漂っていますが、続いて温かく愛しむように歌われるのは、父とデュエットした「シャルロット・フォー・エヴァー」なのです。：ああ、やつぱりそうなんだ：

いつものようにモノクロームのジャケットの中のシャルロットは、死者と生者とのあわいから、亡き父と姉の影を身にまとい、こちらを見つめているようです。

# ほけんのお話

国土交通省によれば、交通事故による死者数、負傷者数、事故発生件数が減っている中で、重度後遺障害者数はほぼ横ばい、介護保険料受給資格者数は少しずつ増えている傾向にあること、死亡事故の割合が減り、重度後遺障害の割合は増えていることとなります。このことは、平均寿命が伸びていることや事故当事者の年齢によって、重度後遺障害にある期間が長くなることが考えられ、治療費や日用品・消耗品、介護施設・介護サービス利用料、家族の生活費などが当事者や家族の大きな負担になり、事故後の生活、家族や親族間の関係にも影響を与えます。

こうした事態に因應するため、東京海上と三井住友は2023年1月の自動車保険改定で、交通事故によって重度後遺障害(こころの健康)とは、等級が(級、2級)を生じて介護が必要になった場合、人身傷害保険(以下、「人傷」という)の支払限度額を無制限に改定しました。例えば、重度後遺障害が生じた場合、5,000万円の保険金額であれば今までは支払限度額が2倍の1億円でしたが今後は無制限になるということです。今までは十分な補償ができないことがありましたが、これで事故後の生活の見通しを立てることが可能になります。

一方、死亡した場合や上位の後遺障害ではない場合は、人傷の保険金額が支払限度額になるため、保険金額によっては保険金が不足する可能性があります。人傷の保険金額は、扶養家族、家計支持者の年齢、生命保険等の保障内容などを考慮して、いざ事故が起きてしまったときに後悔しないように見直しをお勧めします。

※共栄火災で契約されている方には、保険料がわずかな差なので人傷の保険金額を無制限にすることをお勧めしています。



北海道協同保険サービス 生協会館店1階  
TEL 011-726-0441 FAX 011-746-9065

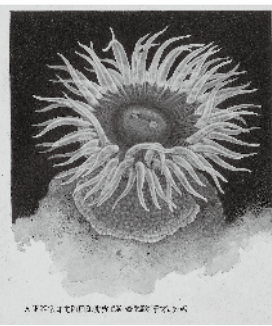
(平日)10:00~17:00 (閉店~土・日・祝・年末年始)  
Eメール hoken.cls@hokkaido.seikyoku.ne.jp

Vol. 33

# 大学文書館へ 行こう

## 第13回 「絵心のある資料たち」

北海道大学大学文書館 井上 高聡



内田亨のスケッチ (1926年)

### 内田亨の妖しいイソギンチャク

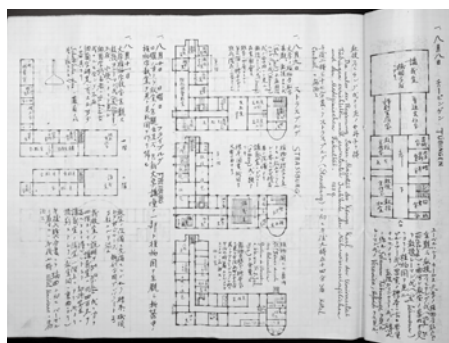
現在、大学文書館では沿革展示室において、企画展示「絵心のある資料たち」を開催しています。北海道大学の歴史に関する資料の中でも、特に「絵心」溢れる資料を紹介する展示です。大学文書館への寄贈資料には、文書資料ばかりではなく、例えば、教員が少年時代に図工や美術の授業で描いた絵なども含まれます。農芸化学の高尾彰一（一九二六～二〇〇八年）農学部教授が小学校時代に描いたクレヨン画は、ユーモア溢れる色彩が目を引く微笑ましい作品です。応用動物学の犬飼哲夫（一九七〇～一九八九年）農学部教授が中学校時代に描いた水彩画は、繊細な出来映えです。大先達を身近な存在に感じさせてくれる資料です。

もう少し大学らしいアカデミックな絵心もあります。後に理学部教授となった動物系統分類学研究所の内田亨（一九七〇～一九八二年）が描いた海洋生物のスケッチです。海中の暗闇をイメージさせる背景に、色鮮やかなイソギンチャクを浮かび上がらせています。迫真性、写実性はもちろん、妖しい夢想性さえも感じさせます。カメラやビデオなどの撮影機器が普及する以前、大きさ、色彩はもちろん、欠損や瑕疵も含めて「見たままを写生する」という記録の方法は、科学研究には欠かせない技術でした。学生は講義の中で写生の練習を行ない、教員は自身の研究発表や講義のため

に作画をしました。また、大学に「画工」と呼ばれる植物・動物・昆虫などの絵を描く専門技術者がいた時代もありました。今回の展示でも、宮部金吾（一八六〇～一九五五年）・工藤祐舜（一八八七～一九三三年）といった北大の植物学研究者の下で画工を務めた須崎忠輔（一八六六～一九三三年）の植物画を出展しています。内田のスケッチや須崎の植物画は、作画の正確さや精緻さが、科学研究の質を大きく左右する要素であったことを示す資料とも言えます。

### 半澤洵の研究施設見取り図

別の観点から大学の研究活動に関連して絵心を発揮した資料に、応用菌学を研究した半澤洵（一八七九～一九七二年）の「旅行



半澤洵「旅行日記」(1913年)

日記」があります。東北帝国大学農科大学助教授であった半澤は、一九二一年、応用菌学研究のためヨーロッパ留学を命ぜられます。半澤は、一九三三年八月から約二ヶ月、ヨーロッパ七カ国四十九都市の大学・研究所の植物学・応用菌学関係の研究施設・設備を調査し、教室・実験室・標本室などの配置・間取りを精細な図にしてレポートしました。半澤の帰国後、東北帝国大学農科大学は、一九二六年に日本初の応用菌学講座を設置し、応用菌学教室を新築して、半澤を初代教授とします。新しい学問分野を興そうとする半澤の熱意がほとばしる図です。

### 堀健夫のカリカチュア

ちよつと洒落た絵心としては、堀健夫（一九九〇～一九九四年）理学部教授が描いたカリカチュアがあります。堀本人はじめ研究室のスタッフ・学生たちの特徴を捉え、デフォルメして描いた作品です。天才・秀才が集った物理学講座堀健夫研究室の雰囲気伝



堀健夫のカリカチュア (1951年)

えています。堀は、アインシュタインの相対性理論を紹介したことも有名な量子力学研究者ですが、絵筆を取っても奇才を発揮しました。

堀は、若いころ、京都の第三高等学校で講師として湯川秀樹や朝永振一郎（一九〇六～一九七九年）を教えていました。堀は朝永の姉と結婚したため、朝永は義弟にも当たります。今回の展示では、学生時代の朝永が堀に宛て、京都の老舗たわらの名物「本うどん」を描き送った手紙も出展しています。後のノーベル賞受賞者が描いたうどんの絵も中々貴重です。

クラーク書籍便り Vol.12		クラーク12月一般書ランキング					
	書名	著者名	出版社		書名	著者名	出版社
1	体はゆく	伊藤亜紗	文藝春秋	6	北海道大学もうひとつのキャンパスマップ	北大ACMプロジェクト	寿郎社
2	月の満ち欠け	佐藤正午	岩波書店	7	コード・ブレイカー 下	ウォルター・アイザックソン	文藝春秋
3	本の雑誌 475号 (2023年1月号)	本の雑誌編集部	本の雑誌社	8	汝、星のごとく	風丸ゆう	講談社
4	同志少女よ、敵を撃て	逢坂冬馬	早川書房	9	このミステリーがすごい! 2023年版	『このミステリーがすごい!』編集部	宝島社
5	コード・ブレイカー 上	ウォルター・アイザックソン	文藝春秋	10	クリスマススイブのサンタさん	フィオナ・ワッツ	大日本絵画

第1位の「体はゆく」は、できることになる(であろう)テクノロジー論についてのインタビューをまとめたもの。目からウロコの一冊です。

第2位「月の満ち欠け」は直木賞受賞作。昨年末の映画化で再注目された、著者の最高傑作と名高い純愛小説です。

ランキング外では絵本などクリスマス関連本を幅広くご利用いただいた12月でした。

北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

## 北大生協組織委員会報告

### 学生委員会

■「アルコールパッチテスト」  
「共済確認会」を実施しました!

12月5日(月)からの1週間、北部店2階の購買前スペースでアルコールパッチテストを行いました。また12月8日(木)・12月9日(金)の2日間は、「共済確認会」も併せて実施しました。アルコールパッチテストは250名、共済確認会は30名の方にご参加いただきました!

■「Letter」「ダイエツトは明日から号々恋する秋がやってきた」を配架しました!

12月上旬、Letter521号を各食堂に配架しました。「令和版愛してるの訳し方」「新千歳空港さんぽ」「目指せ美ボディ!つけよう筋肉!」などの記事を掲載しています。ぜひご覧ください!



■受験生・新入生のための企画がスタートしています!

今月25日に控える前期一般入試などに向け、「受験生歓迎」の活動を進めています。また、4月に入学する新入生に向けた歓迎企画「春友祭」も現在検討中です。

### 院生委員会

■あけましておめでとうござい  
ます!

今年も院生の皆さまを対象とした企画を実施していきます。2023年も院生委員会をよろしくお祈りします!

■第2回院生フェスタ開催!

昨年11月上旬に第2回院生フェスタを開催しました!  
院生フェスタは研究室外の横のつながりを作り、院生同士の交友関係を築くことを目指して昨年から開催しています。

今回はミニゲームと交流会を実施し、研究室も専門も異なる学生同士でワイワイ楽しみながら交流する姿が見られました。



■院生委員会公式Twitter  
@Hokudainsei\_coo

院生生活や生協にまつわる情報を毎週定期的に発信しています!  
是非フォローをお願いします!

■院生委員会連絡先

hokudai\_insei@coop.hokudai.ac.jp  
「院生委員会にこんなことをしてほしい」などのご要望があればぜひご連絡ください!

### 教職員委員会

■教職員総代会議…12月13・14日昼休みにWeb会議により開催しました。対面授業の実施状況や利用増のための意見などを交流しました。生協アプリ登録についても意見が出されました。

■教職員委員会…毎月の定例会議を開催し、きぼうの虹の編集および総代会議での意見について話し合いました。次年度の活動についても意見交換しました。

■「きぼうの虹」…この冊子です。教職員委員会が編集し、隔月を基本に発行しています。

【編集後記】

新型コロナウイルス感染が広がって2年が経ちましたが、収束する気配はまだ見えません。対面授業とつながりつつありますが、コロナを取り戻しつづけています。コロナとは引き続き付き合いますが、法が変わり、人との付き合い方も変わってきました。授業や研究の方法が変わり、人との付き合い方も変わってきました。ただ多くの人が一緒に学び研究する大学という場では、やはり人と人との交流は大切にしたいですね。生協もそんな場面で大切に、今年も引き続きがんばってまいります。

**2023年度  
総代立候補受付  
を開始します!**

受付期間: 2023年4月下旬まで  
候補資格: 北大生協の組合員  
受付方法: 最寄りの組織委員または生協理事会室にご連絡の上「総代候補者届出用紙」を提出

北大生協 総代選挙管理委員会